



学校だより 小雀

ホームページ: <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/kosuzume/>

令和2年6月22日発行
7月号
横浜市立小雀小学校

We Love KOSUZUME

校長 今野 敏晴

夏の風物詩でもあるホタルが、小雀公園で観賞できることを聞いて17日に行ってきました。今年は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、ホタル観賞会イベントは行わず自由散策ということでした。園内のホタルの里では、5頭ほど確認できました。幻想的なホタルの光を追っていると日々の喧騒を忘れさせてくれます。自然環境豊かな小雀のまちですが、素敵な場所をまた一つ発見した一日でした。

さて、6月12日は、本校の創立記念日です。昭和43年6月12日に大正小学校東分校として最初の授業が行われた日です。梅雨晴れの暑い日に多数の保護者の方々の協力のもと、備品搬入が行われ、子ども達も自分たちが使う机などを額から汗を流しながら運んだといひます。木の香りが漂う教室に入り、どの子の顔にも自分たちの学校の誕生に喜びがあふれていたそうです。この日より本校は、51年目を迎えます。子どもたちに創立記念の校長講話をするために過去の周年記念誌に目を通しました。50年の歴史の中に、校風や伝統を創り続けてきた子ども達や教職員、保護者、そしてそれを支えていただいた地域の皆様の思いを改めて感じました。講話では、「小雀小や小雀のまちに関するクイズを出しながら、学校やまちを大好きになってほしい。そのためには、小雀小や小雀のまちのことを調べたり、学校やまちのために何かできることはないか考えて行動したりすることが大切であり、主体的に行動することで本当に好きになる。校風や伝統は守るだけでなく、挑戦する中でこそ引き継がれる。これからみんなで小雀小を創っていこう。」そんなメッセージを込めました。

本校で育てたい資質・能力の一つとして、自己肯定感・自己有用感の育成があります。自分の所属する学校や地域を好きになることは、自己肯定感を高める方法の一つです。その方策は、学校や地域のよさや課題を自分事として捉える参加型プロジェクト学習を行うことや行事や集会等を主体的に創らせることなどだと考えています。地域に対する住民の愛着形成を調査したところ次のような結果が報告されています。(地域に対する愛着形成機構 東北大学大学院 文学科調査より)

- 物理的環境（景観のよさや医療・福祉施設の充実等）に対する評価が高いほど地域への愛着が高い
- 社会的環境（住民間の交流の多さ・地域イベントに対する肯定的感情・住民の人柄・地域の治安等）に対する評価が高いほど地域への愛着が高い
- 物理的環境より社会的環境の方が大きな効果を持つため地域の人付き合いの充実が重要である
- 愛着形成は、居住年数の長さではなく、地域での経験の種類や質である
- 評価が高い集団や地域に所属しているという認識は、自己肯定感を高める

子ども達が、学校やまちを好きになり、自己肯定感を高めるためにどうすればよいのか考えさせられる調査結果です。本年度は、コロナ禍により、総授業時数の減少、新しい生活様式での学習、地域行事の中止など地域学習がしづらい状況にありますが、学校や地域の魅力を発見して発信する教育活動を工夫したり、学校を支援していただいている方とのつながりを考えたりするなどを行い「まちと共に歩む学校づくり」に取り組んでまいります。

「I Love KOSUZUME We Love KOSUZUME」と誇れる子ども達であるよう応援していただければ幸いです。

